啓発資料
同和教育つうしん

第23号

発行　長野県教育委員会同和教育課
発行人　大井方夫
長野市大字南長野字幅下692-2
電話　026-235-7452
FAX　026-235-7490

お母さん、私の手はいくら洗っても白くならない

私はスリランカから日本に来て14年経ちました。

娘が二人います。長女が12歳で、二女が10歳です。

二女が4歳になり保育園に通っていた時のことです。

気がつくと、二女は毎日石鹸で何回も何回も手や顔を洗うようになりました。娘の行動の変化について気になった私は、そのことについて聞きました。

娘は涙ぐんで私を見つめ、

「ママ、私の手、白いよね。」

と、言いながら両手を広げて見せました。

「そうよ。あなたの手は白いよ。」

と言うと、娘は、

「それでも、ママ。顔と手の甲は、どんなに洗っても白くならないよ。」

と言いました。突然この言葉を聞いた私は、何を言えばいいのかわからなくなりました。

「どうしたの？　何があったの？　話してごらんなさい。」

と聞くと、娘は泣きながら、

「友だちが、『手が黒いから、顔と手を洗って来て。』と、言っているよ。『外人、外人』って言っている人もいるよ。ママ、どうして私は外人なの？」

と聞きました。その言葉を聞いた私は胸が張り裂けそうになって、体全体が震えだしました。

そして、娘をきゅっと抱きしめて、どうやって説明したらいいか考えました。

その時、私の頭の中にチューリップの歌が浮かんできました。

「咲いた　咲いた
チューリップの花が
ならんだ　ならんだ
赤　白　黄色
どの花見ても　きれいだな。
どの色のチューリップもみんなきれいでしょ。それと同じように、どの人にもいいところがあるんだよ。友だちはまだそのことがわからないんだよ。だから、みんなとなかよくしてね。」

と言いました。

私が日本に来て受けた苦しみを、日本で生まれ育った娘がまた受けるなんて、夢にも思いませんでした。娘をこれから育てていくために、私は何をしたらいいのか悩みました。

しかし、一人で悩んでいてもどうしようもないと思い、私は保育園のお母さん方に娘の苦しみを話しました。

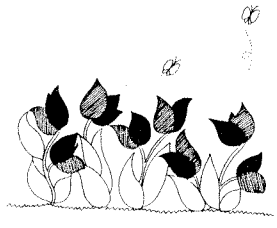
保育園のお母さん方は娘や私の苦しみをわかってくれて、

「二度とこんなことがないようにしよう。」

と言ってくれました。

そのおかげで、現在4年生の二女は、毎日楽しく学校に通っています。私の悩みを自分たちの問題として真剣に考えてくださった地域の方々に感謝しています。

（H・S）



標語

育てよう　差別をゆるさぬ　勇気と心
宮沢　知恵さん

他人の痛み　分かる心が　差別を無くす
長谷川和一さん

【平成11年度　長野市同和教育資料集『友だち』25集】より
［東日本旅客鉄道㈱長野支社］

わが社の同和教育の取り組み

私は、機械部品を製作する会社を経営しています。先日、N社の社長さんとお会いした折、N社の同和教育の取り組みについてお話を聴くことができました。はっとさせられたことがことがありましたので、伺ったことを紹介します。

スタート

わが社は、上下水道や建築設備の工事を主とする専門業者です。社員の中に、『自分だけよければ』とか、『人のことは関係ない』といった意識があり、現場で作業能率が上がらないことや社内の人間関係がギクシャクすることもままありました。そこで、豊かな人間関係を培うために、相手の立場や考え方を理解できる人づくりの必要性を痛感し、同和教育の研修がスタートしたのは、10年前でした。

研修会をどう組み立てるか

研修会は、義務出席としています。毎回約90％以上の出席があります。外注班や協力業者にも参加を呼びかけ、毎回50名くらいの参加になります。

今までの研修は、朝礼や業務会議を利用して、年5回程度、同和問題の現状や同和対策事業の意義等の説明が中心でした。しかし、それでは、なかなか自分の問題として考えられなかったり、心を開いて話し合うことができませんでした。そこで、研修内容を、身近に起きた差別事象をもとに話し合ったり、一人ひとりの人権意識を高めるための講演や、啓発映画などを使っての研修に変えてきました。計画や運営は、私が中心になって進めてきました。

社内アンケートを活かす

工夫をしながら取り組みをしてきましたが10年を経過したので、『社内アンケート』の実施により、今までの研修の成果や人権意識の現状を把握することにしました。今後の企業内教育の進め方や啓発の方法を探る資料にしようと考えたからです。

早速アンケート調査を実施し、そのまとめをしてみました。その結果、今回の調査を通じて、さまざまなことがみえてきました。差別問題は、どこの企業でも起こりうる可能性があること。また、正しい同和教育を受けたとされる若い世代に、「そっとしておいた方がいい」「改めて同和教育はしない方がいい」という考えが意外に多いことでした。そのことは、今までの研修が、差別を温存する社会構造に気づき、変えていこうという力になり得ていなかった実態が見えてきました。

しかし、若い社員が「研修を受けていくうちに、今までは、自分には関係ない問題だと考えてきたが、同和問題やさまざまな差別に憤りがわいてきました。これからも、職場や身近な家庭をしっかりと見つめ、小さなことでも実践に移せる自分になりたいと思います。」という、前向きな声には、確実に成果も上がってきているなあとうれしくなりました。

そして、企業として部落差別問題はもとより、あらゆる差別をなくす人権感覚を育てる研修をこれからも行っていきたいと考えています。すぐには成果が目に見えて上がらないかとは思います。でも普段気づかずにいる身の回りにある問題を教材にして、日常的に継続した学習会を根気よく実施していこうと思っています。

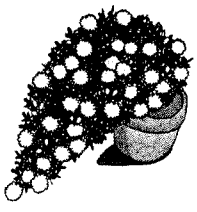
N社の社長さんが「少しずつではあるが、社員の人間関係も円滑に進むようになってきました。」とも、うれしそうに熱っぽく語るその表情が印象的でした。さっそく、私の会社の同和教育の研修もなんとか見直してみることにしました。N社のような、互いの人権を尊重し、理解と信頼のできる人間関係を構築していくことが、言いかえれば、差別のない明るい職場づくりが、会社経営にとっても不可欠であり、プラスになるのではないでしょうか。そしてそのことが、企業のイメージを高めるとともに、生産性や業績のアップなどにも直結してくることが、社長さんのお話から実感できました。

〔S社　社長〕

企業同和教育の推進を！

～企業同和教育推進協議会が発足～

I市において、各種団体の代表者が集まり企業同和教育推進協議会が発足しました。今年の2月29日の設立準備会では、「社会に貢献するという立場で賛同する。」「もっと早くできればよかった。」など前向きな話し合いのもと、事業内容や組織化の原案が円滑に了承されました。事業内容として、企業内の研修会における講師の紹介・派遣、啓発教材の貸し出しや紹介、同和教育つうしんの配布などを実施する計画を立て、動きが始まっています。



アボリジニのフリーマンさんから

アイヌ問題を考える！

～アイヌの人々に関する問題は、〝日本人の問題〟～

今世紀最後のシドニーオリンピックとパラリンピックが、多くの感動と、21世紀へ向けてのさまざまなメッセージを世界に発信し、終わりをつげました。特に印象深かったのは、最終聖火ランナーで、陸上400m金メダリストのフリーマン選手の存在でありました。それは、オリンピック直前、オーストラリアの先住民族であるアボリジニの人々に対する人権問題が話題となっていた最中のことだったからです。ゴール後に、アボリジニの旗とオーストラリアの旗とをもって、さわやかな笑顔で多くの観衆に応えていた姿は忘れられない場面です。

この出来事は、アイヌの人々に関する人権問題と重なるのではないかと感じました。日本においてもフリーマン選手が投げかけたメッセージをしっかりと受け取らなければいけないと感じています。

今日、先住民族や少数民族に対する差別をなくし、その独自性と文化を守ろうという動きが活発になってきています。しかし、私たちは、アイヌの人々が今どういう状況にあるのか、どんな思いでいるのか知らないことが多いのではないでしょうか。

では、アイヌ問題とはどんなことなのでしょうか。「アイヌ」という言葉は、アイヌ語で「人間」という言葉です。しかし、差別意識をもった人達が侮辱の意味を込めてこの言葉を使ったため、アイヌ語で同胞という意味の「ウタリ」という言葉が多く使われるようになったこともありました。アイヌの人々は、かつては東北地方から北海道、サハリン（樺太）、千島列島に及ぶ広い範囲に住んでいました。狩猟・採集・漁労を中心とした生業を営む中で、自然の恵みを感謝し、人間を深く愛し、平和な暮らしを送っていた民族です。その中で、独自の文化も育んできました。芸術性を持つアイヌ文様や、口承文芸などは豊かな文化の結晶でもあります。しかし、明治になって、蝦夷（えぞ）地は、北海道となり、本州などから多くの移住者（和人）がきて追いやられました。このため、少数者となったアイヌの人達は、伝統的な生活や生産の手段を失い、貧困にあえぎました。また、アイヌ民族であることを理由に結婚や就職などでさまざまな差別を受けてきました。今では伝統的な生活を続けている人はいませんが、その生活は必ずしも恵まれた状態にあるとはいえないのではないでしょうか。アイヌの人々に関する問題は長く、深い歴史的背景があります。差別解消はもとより、民族としての尊厳を取り戻すために、平成九年度に「アイヌ新法」が施行されています。

さて、私達の身近に、アイヌ語を語源とする言葉があります。「コンブ」、「ラッコ」、「トナカイ」「シシャモ」等、日常の中で普通に使っているものもあります。また、地名に至っては東北地方や北海道、千島列島、サハリンに非常に多く残されているそうです。例えば、知床はアイヌ語で、シルエトク（大地が突き出た先という意味）といい、知床半島がオホーツク海に突き出た姿をうまく表現しています。

私にとっては、今までアイヌの人々に関する問題といわれても他人ごとでありました。しかし、シドニーオリンピックのフリーマン選手の姿に強く感化され、これは「日本の問題」、言い換えると〝アイヌの人々に対する日本人の問題〟であり、私たち自身の問題であると思うようになりました。

【E・T】

【チセ】
家のことをチセッ　チ＝私達　セッ＝寝床
話すときはチセといいます。

【カパラミブ】
伝統的な二風谷アイヌの晴れ着です。

■出典：萱野茂二風谷アイヌ資料館
http://www.frpac.or.jp/bunka/museum_info/nibutani.html

人権感覚について考えてみましょう。

気になる会話

☆視覚障害者が、ぽかぽかと暖かい日に外出をしたところ
近所の人『無理して出歩かなくてもいいのに』

☆女性が結婚の報告を上司にしたとき
上　司「仕事続けるのか？　いつ止めるのか」

職場での休憩時に

◇先月完成した車椅子用のスロープや障害者用のトイレを、一回も使ったことがないという車椅子を使われている方の一言にムッときた。そこで、実際に車椅子で使ってみたら、スロープの斜度がきつく、玄関のドアに衝突しそうになったり、トイレも手すりの位置やドアが何とも使いづらいことがわかった。今まで障害者の方のことを考えていろいろな施設を手がけてきたつもりだったのに・・・。

◇妻が妊娠をして、おなかが大きくなった。スーパーや役場へ車で出かけるが、『駐車スペースが狭くて乗り降りが大変』ともらす妻。『出産するまで、障害者用の駐車スペースを利用できるといいなぁ』とつぶやく。

「エイズ」問題と向き合う

最近、エイズ問題と向き合い、語り合い、ともに生きていこうという取り組みがあります。

まず、今あなたは、感染者に対してどんな気持ちをもっていますか。

○をつけてみて！

感染者とわかれば

①（　）近づかない

②（　）それとなくあわないようにする

③（　）感染者も他の人も分けへだてなくつきあう

④（　）何かと元気づけたり、励ましたりする

⑤（　）感染者が自分の体にふれたときは、すぐにそこを洗う

⑥（　）顔を近づけて話さないようにする

⑦（　）友だちになることはできない

⑧（　）他の人にも感染者であることを知らせる

⑨（　）わかっても、そのことを他の人に知らせる必要はない

⑩（　）感染者と会って見なければわからない

軽井沢町にポジティブカフェ「ノーチェ」がオープンしています。「ポジティブ」は、HIVポジティブ（陽性）というように、HIVに感染していることを指すこともあります。けれど、「前向きな」とか「積極的な」といった意味もあります。感染している人も、していない人もコーヒー一杯で気楽に楽しめる空間として生まれました。

エイズ患者らの支援ボランティアを続けてこられたKさんが、話し相手や仲介役を務め、エイズと向き合い語りあう輪を地域に、そして全国に広げていきたいと願って開いたものです。

カフェでは、感染者たちが作った布の小物を展示・販売したり、イベントや勉強会が行われたり、子どもたちが訪れたりしています。また、感染者との交流もできます。

木村さんが、エイズ患者の方と共に講演に行った研修会では、「我が社には、幸いなことにエイズ患者は一人もいない。」と誇らしげに語った大手企業課長の人権感覚の低さにあ然。また、電車の中で、何度も咳をする友人に向かって、「おまえ、やたら咳をするけど、エイズじゃないだろうな。どこかで変なことをしてきたんじゃないだろうな？」という偏見。あまりにもエイズ患者の苦しい思いを無視した他人ごと的な言動に出会い、がく然としたとも言います。

最後に、まだ偏見を持っていない、何でも吸収できる柔らかな心を持っている若い人たちに、自分の身体を守るためにも、エイズについて学んでほしいと熱く語ります。

軽井沢町は、世界的な観光地。にぎやかに、はなやかに若者たちが行き交う街を通り過ぎた、ベランダには、リスや小鳥も訪れてくる森の中にポジティブカフェ「ノーチェ」があります。「心が疲れた時、一人で静かに考えたい時、友人とゆっくり語りたい時に最高の場所です。」とパンフレットにも紹介されています。

ポジティブカフェ「ノーチェ」に、また、訪れてみたいと思います。この病気と闘っている人は、この病気とともに「生きて」います。病気はその人のすべてではなく、一部分でしかないのではないでしょうか。HIVに感染していても、そこに周りの人々からの適切な援助や配慮、温かな心が、今必要なのではないでしょうか。

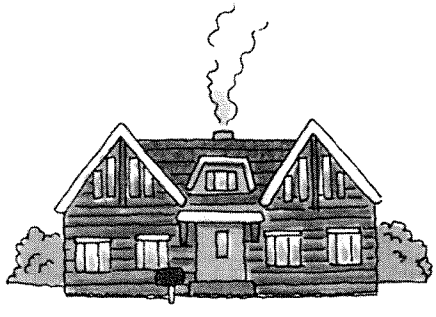
〔H・Y〕

ノーチェ（NOCE）

＝イタリア語で"クルミ"の意

軽井沢にオープン！

～感染している人も、していない人もコーヒー一杯で楽しめる空間～



ポジティブ・カフェ・ノーチェ

e-mail pcafe-noce@msi.biglobe.ne.jp

エイズに関する相談は、最寄りの保健所まで